

2017/4/20

(日々雑感 83)



最近、結構楽しいんです。

医者からは、体内炎症係数が上がって過労だと言われ、時々ですが、めまいはするし、冷や汗は出るし、幻覚は見るしでだいぶんガタがきてはいるのですが、それでもなんとか持っているのは、楽しい部分があるからだと思います。

確かに、医学的に言えば、僕の血液の血中濃度値だか比重値だかが人に比べて異常に高い、つまり「血がやたらと濃くて重たい」お陰で身体が保っているという科学的根拠はあるらしいのですが。

話が逸れて申し訳ありませんが、異常と言えば、僕のもっている想像力というものが、なんでも健常者の3倍くらいあるらしく、その想像力のお陰で、予知能力とは全く違うものなのですが、予測、予見が働くと共に、想定パターンがたくさん出てくるので、意外と手札カードが増え、しかもだいぶん早い段階から手持ちの駒を持ちつつ、その先の予測、予見に従った段取り（つまり地ならしと組み立てとその順番づけ）ができるので、あまりじたばたした無駄な動きをしなくて済みます。そのせいで疲れは案外少なくて、倒れずに済む科学的根拠になっているのかもしれない。

ですから、みなさんも訓練（トレーニング）で想像力を磨くと、仕事量から来る行き詰まりの思わぬブレイクスルーのノウハウが見つかるかもしれません。

さて話を元に戻しましょう。

今までは、書くばかりだったのですが、最近は話す機会が多くなりました。そうして話を聞いてくれる人が増えてきたのです。さらには、その先、僕の話の中から伝えたいことやノウハウを知りたがった上に、実際に使ってみてくれる人がぼちぼち現れてきたからです。

是は励みになります。ものすごくパワーをもらえます。

訊いてくるから、答える。答えるからまた訊いてくる。双方向のコミュニケーション。

書いて居るときは、一方通行だったので、手応えや反応がなかったのですが、それがあつた。

その「あつた」と言うことが珍しくもあり新鮮でもあり、且つまたこの上なく嬉しくもあるの

です。

無論全部というわけではありませんが、伝えたいこと使って貰いたいことのつか二つでもあって、それを置き土産に出来たら、あの世に持って行けないお金なんかひーこら言って、四面楚歌になって貯める事に気を奪われるより、よほど気分が良いし、楽しいし、さすがにいい気分になれるような気がします。

どのみち何一つあの世にはもっていけないんですから、どうせ置き残していくなら、使いやすいいものを残していくのが良いと思います。

そういう意味では、ノウハウと双璧のお金もそうなんです、何故かこちらは僕のノウハウなんかより希望者が圧倒的に多くて、毎度争いの元になっているようです。

この世への置き土産にはお金以外にもあるんだと言うことを、もう少し知ってもらえると良いかなとも思います。

もちろん、僕の置き土産がそれほど「優れもの」だとは言いませんが、ちょっと皆さんの日頃の目線を、ほんの少し変えるくらいの役に立てば本望かな？と勝手に思ったりもしております。

そう言えばこの、話して伝える、伝えて使って貰う楽しさを与えてくれたのが、第一号が証券会社の新入社員のおんなの子。学生時代「陸（おか）ホッケーのキャプテンをしていた子です。そして第二号が、例の「謎の中国人おんなスパイ」の俊麗（シャンリー）でした。一方僕に、いろいろ伝授して下さったのが大先輩やパートナーさんや自治会長さんでした。

こうしてみると、じいさん達が僕に伝授し、僕が娘に伝授するという一つのサイクルができてはじめているのかもしれませんが。これをちゃんとしたエコサイクル（循環サイクル）にするには、あと娘とじいさん達を繋がなくてはなりません、今のところその道筋はまだついていません。

それが、これから僕がする仕事なのかなと思います。

最後に蛇足にはなりますが、俊麗は僕のことを「老人（ラオレン）」と言ってはばかりません。前にも書いたように「せめておっさんか旦那さん位にして於けよ」とは言っているのですが、一向に改める気配はないようです。正直言って、意味が分かりません。

そう言えば今日は鄧小平さんと長俊麗さんは夫婦そろって久しぶりの休暇だとか。いつもは別々なのに珍しいことです。綺夏の妹作りにでも励むのでしょうか？

ちなみに俊麗が「謎のうんちゃら」だとすると鄧さんは我が国固有のキャラに喩えると、昔の人しか知らないかもしれませんが福助度の「福助さん」そっくりなのです。

まあ、なにはともあれ、仕方ないので「ラオレン」は今日、自宅で一人、杯（さかずき）を傾けることにしました。